

(2) 藤島地域

藤島地域は、多くの農業関係機関、団体などが集積し、稲作を中心とした農業が盛んに行われて来た地域です。このような地域特性を生かしながら、これまで実践してきた人と環境にやさしい農業の取組を継続し、安全安心な農産物の生産を支援し、農業を核とした地域づくりを推進します。また、経営形態に応じた多様な米づくりを支援するとともに、複合的農業経営への転換を図り、農家所得の向上をめざす取組を行います。

藤島地域がこれまでまちづくりに活用してきた「ふじ」や伝統芸能である「獅子踊り」など、地域が育んできた貴重な歴史と文化を次世代にしっかりと継承していく取組を進めます。また、藤島歴史公園「Hisu花（ヒスカ）」を地域資源として活用し、市内外の交流の拡大を図ります。

依然として進む少子高齢化に伴う人口減少を見据え、子どもの健やかな成長を育む教育環境の実現と魅力ある文厚エリアの検討、地域内の生活基盤を再構築する取組を進めるとともに、頻発する自然災害等にも対応できる地域特性に即した防災力の強化など、住民が安心して生活し、暮らしやすさを実感できる施策を展開します。

ア 未来に繋げる田園文化と多様な水田活用農業の振興

○施策の方向

これまで実践してきた人と環境にやさしい農業の取組を継続し、安全安心な農産物の生産を推進します。また、大規模農業や有機農業などの経営形態に応じた多様な米づくりを支援します。

あわせて、農業経営の複合化を図るとともに、地産地消を推進し、農家所得の向上をめざすプロジェクトを展開します。

また、農業が縁となり、これまで築きあげてきた首都圏大学との交流や、優れた人材を輩出し地域の農業を支えてきた庄内農業高等学校などとの連携を強化します。

○主な施策

- ① 地域の特色である人と環境にやさしい米づくりを継続して推進するとともに、農家の大規模化に対応した低コスト・省力化技術等の習得を推進し、効率的な稲作経営の実現を支援します。
- ② 県農業関係機関、JA等と連携し、基礎技術から高度技術まで幅広い研修等を実施するとともに、担い手農家の情報交換を支援します。
- ③ 地場産ブランド米の開発を支援するとともに、地産地消を推進します。また、ふるさと納税や首都圏イベントにおけるPRなど販路拡大を図ります。
- ④ 農業経営の安定化に向け、非主食用の新規需要米の生産拡大や、大豆などの土地利用型園芸作物を振興して水田を活用した稲作との複合経営を推進

します。

- ⑤ 新鮮な地元農産物を学校給食に供給する団体を支援し、地産地消率の向上を図ります。また、食農教育や田んぼの生き物調査などの農業体験学習を通して子どもたちが農業の未来や魅力に関心を持ち、地域への誇りと愛着を育む取組を行います。
- ⑥ 庄内農業高等学校と地域、関連団体などが連携して、学生の地域活動への参画を支援し、地域とともにありつつける魅力ある学校づくりを推進します。また、首都圏の大学との連携により農産物のPRを行い、首都圏と地域の交流を推進します。

イ 歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進

○施策の方向

藤島地域を象徴する「ふじ」と獅子踊りなどの「伝統芸能」は、今後も重要なまちづくりの資源と捉え、地域に活力を生み、住民が誇りと愛着を持てる地域づくりにつなげていくとともに、地域内外にその魅力を発信し、交流人口の拡大と賑わい創出を図ります。

また、ふじのまちのシンボル施設として整備した藤島歴史公園「Hisu花(ヒスカ)」と隣接する東田川文化記念館を活用した地域づくりや観光拠点化の推進を図り、それに関わるボランティアの育成などにも取り組みます。地域の資源や特性を生かした取組を一層発展させながら、多様な人々の関わりによる歴史と文化、交流が彩るまちづくりを推進します。

○主な施策

- ① 藤島歴史公園「Hisu花(ヒスカ)」から始まる地域づくりとして、市民がHisu花を拠点にまちづくりや公園活用を検討できる場を設定します。また、オフシーズンのイルミネーションの点灯や住民参加の花壇整備などに加え、四季を通じた魅力発信に努めます。
- ② Hisu花と東田川文化記念館を一体的な観光拠点ととらえ、効果的なソフト事業の展開や施設の充実を図り関係人口の増加を促進します。また、これらの資源を活用し、地元商工業者等との連携による観光振興に取り組みます。
- ③ 東田川文化記念館の利活用について地域住民と検討し、史跡としての歴史的価値を再認識できる情報発信などの事業を展開し文化意識の向上を図ります。
- ④ ふじのまちにふさわしい藤棚の適正な維持管理を推進するため、地域住民、ボランティアなどの住民の主体性を生かした取組や活動を支援します。
- ⑤ 市内の伝統芸能の裾野を広げるイベントとして鶴岡伝統芸能祭を開催し、獅子の里「藤島」を発信します。また、伝統芸能の保存伝承にも取り組みます。
- ⑥ 地域のシンボル「ふじ」や「農業」をテーマとするまつり開催などの賑

わい創出により地域内外への魅力発信を強化し、観光振興を促進します。

ウ “くらしやすい” 藤島” を実感できる生活基盤の再構築

○施策の方向

この地域に住みたいと思えるような、暮らしやすさを実感できる生活基盤の再構築に向けて、若者世代から選ばれる地域をめざした子育て・教育環境の充実と文厚エリアの整備推進を図ります。

地域公共交通のあり方など高齢者が社会参加しやすく、いきいきと充実した生活を送れるような仕組みを地域と協働で検討していきます。

また、庄内東縁断層帯の南端部に位置し、藤島川と京田川の二つの河川が貫流する地理的な特性にあることから、地震、大雨などの災害に備えて、防災機能の強化や地域防災力の充実を図ります。

○主な施策

- ① 藤島中学校改築等の教育施設整備に合わせ、文化・教育・厚生施設の整備等の方向性を定める「藤島文厚エリア※整備基本計画」を策定し、少子・高齢化が進む藤島地域の中長期的なランドデザインを描くとともに、子育て世代に選ばれる魅力的なまちづくりを進めます。
- ② 子育て世代が安心して子育てできる地域を目指した環境整備を行うため、特に老朽化が進んでいる児童館や保育園は、少子化の進展と子育て家庭のニーズを勘案した施設整備を検討し、子育て環境の充実を図ります。
- ③ 藤島地域内の既存の地域公共交通網を活かしながら、住民の利便性と公共交通空白地帯を生まない持続可能な公共交通体系の確立を目指します。
- ④ 住民が健康でいきいきと暮らせる仕組みづくりとして、生涯スポーツなどに打ち込める環境整備に努めます。また、高齢者が生きがいを持って暮らし続けられるよう、社会参加の促進や買物弱者対策を進めるとともに、健康増進施設「長沼温泉ぼっぼの湯」などを活用したフレイル予防事業や子育て支援事業にも取り組みます。
- ⑤ 災害に強いまちづくりを推進するため、共助の基本である自主防災会運営の強化、二次避難所となる地域活動センターなどの施設環境の整備、関係する各組織の緊密な連携による訓練の実施や避難計画の策定などを支援し地域防災力の充実を図ります。

※藤島文厚エリア

藤島地域中心部の文化・教育・厚生施設（小・中学校、児童館、老人福祉センター、地域活動センター、体育館等）が立地する区域

施策の成果指標

項目(測り方)	現状値	実績値	成果指標(KPI)
農業収入1,000万円以上の経営体割合	16.4% (2017(平成29)年度)	20.25% (2022(令和4)年度)	30.0% (2028年度)

[設定理由]

水稲単作から脱却した複合経営の促進などにより、農家収入が向上して安定した経営体の増につながる。

項目(測り方)	現状値	実績値	成果指標(KPI)
ふじ関連イベント・施設入込数	21,615人 (2017(平成29)年度)	47,695人 (2022(令和4)年度)	62,000人 (2028年度) ※当初設定値36,800人

[設定理由]

新たな地域資源である歴史公園Hisu花と東田川文化記念館の利活用を図ることにより、ふじの花まつりなどイベントを含めた交流人口の拡大につながる。

[変更理由]

コロナウイルス感染症による事業の中止に伴う入込数の減少と、藤島歴史公園「Hisu花」に冬期間に開設する「藤島イルミネーション」の入込数の増加を加味して変更したため、目標値を上方修正する。

項目(測り方)	現状値	実績値	成果指標(KPI)
藤島地域の年間人口減少率	△1.9% (2017(平成29)年度)	△0.94% (2022(令和4)年度)	△1.5% (2028年度)

[設定理由]

生活基盤の再構築など安心して暮らせる支援や仕組みづくりの推進により、定住地や子育て世帯に選ばれるまちと実感され人口減少率の低下につながる。